

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02356

研究課題名(和文)「アメリカ人」アイデンティティにおける人種概念の中の「血」と「場」表象の研究

研究課題名(英文) Study of Representations of "blood" and "place" in the concept of race within the "American" identity

研究代表者

杉山 直子 (Sugiyama, Naoko)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20213506

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：「アメリカ人」アイデンティティ構築において、制度的な黒人差別が存在する一方でいわゆる「新移民」が増加する19世紀後半から世紀転換期の人種表象の重要性が認識された。この知見に基づき、マーク・トウェインおよびウィリアム・ディーン・ハウエルズの文学作品における人種表象についての研究を発表した(2015、17、18)。同様の視点から先住民の作家の研究も行い、特にレズリー・マーモン・シルコウの作品におけるアメリカ人アイデンティティについて口頭発表を行った(2018年6月)。また中国系アメリカ人作家マキシーン・ホン・キングストンの諸作品を同様の観点から読む着想を得た(口頭発表,2018年9月確定)。

研究成果の概要(英文)：The importance of the racial representations during the late nineteenth century, the era in which the problem of institutional racial discrimination against African Americans surfaced while the number of "new" immigrants from eastern and southern European countries increased, has been confirmed in terms of the development of the "American" identity. Based on this discovery, I focused my research on Mark Twain and William Dean Howells, and analyzed how they dealt with racial images and identities in their novels. An article in a scholarly journal and two oral presentations resulted. I also pursued this theme to analyze Native American literature, and presented the result at the annual convention of American Studies Association in June, 2018. These research led me to an analysis of Asian American authors, and an oral presentation on Maxine Hong Kingston is scheduled to take place at an international convention in Tokyo in September, 2018.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：William Dean Howells Leslie Marmon Silko American identity passing transnationality Alma
nac of the Dead Native American Imperative Duty

1. 研究開始当初の背景

合衆国の人種概念とその文化的表象については、エスニック・スタディズやカルチュラル・スタディズの隆盛と共に、学際的な研究が進められてきた。また少数派に属する作家たちだけでなく、いわゆる「主流」に属する作家たちもそのような観点から論じられることも多くなり、人種概念そのものが奴隷制度や移民といった国家形成への大きな動きの中で変遷を遂げてきた経緯についての Thomas F. Gossett の大著 *Race: the History of an Idea in America*(1997) のような、人類学、科学、ジャーナリズムにおける言説にも目配りした概括的な研究も、文学研究に大きな影響を与えてきた。

申請者は平成 20 年度より三年間にわたり「アメリカ文学における人種とジェンダー越境表象の研究」として科学研究費基盤(c)により研究を進め一定の成果を見たが、その中で、違う人種に成りすまそうとする「人種越境(パッシング)」がきわめてアメリカ的な現象であること、そもそも合衆国の「人種」概念が極めて特殊なものであり、またその歴史や変遷も特殊かつ複雑なものであり、また合衆国における「アメリカ人」という自己アイデンティティの理解には、この人種概念の理解が不可欠であり、そのためには、少なくとも奴隷制度の廃止と移民人口の大きな変化が生じる一九世紀にさかのぼり、「人種」概念の表象をたどることが必要であるとの確信を得た。また、平成 14、15 年度に「アメリカ合衆国の女性文学における「女神信仰」の表象」として同じく科学研究費基盤(c)により行なった先住民作家レズリー・マーモン・シルコウの研究において、「人種」概念が、特に先住民との関連で論じられる際には「生物学的な遺伝」だけでなく「土地やコミュニティ」に関わるものとされる事例が多いことも発見した。これらの研究、および申請者が近年行ってきた、アジア系アメリカ人のアイデンティティについての諸研究により、申請者は、合衆国文化の根幹をなす国民国家のアイデンティティを理解するためには、「人種」概念の精査が不可欠であり、それは二つの大きな要素、つまり「血」(生物学的要素)と「場」(地理的要素)からなるものであること、この二つの要素を平行して概観することによって、あらたな合衆国文化・文学以上の仮設に基づき、申請者はまず主に一九世紀の人種関連の言説に注目し、近年人種および「なりすまし(パッシング)」という観点から注目されることの多い、マーク・トウェインの小説『間抜けのウィルソン』(1894)を、同時代の人種観およびその変化という観点から分析する論文を執筆した。(『間抜けのウィルソン』におけるもうひとつのパッシング—イタリア人双生児の人種アイデンティティをめぐる一考察)

2. 研究の目的

「アメリカ人」アイデンティティにとって重要な「人種」概念は、特に南北戦争後に再構築、変容を繰り返してきた。本研究は、主に黒人と先住民に関する言説に注目して、その成立と変遷の様相を明らかにしようとするものであった。人種概念の要素には「血」(生物学的関係)と「場」(地縁・地理的關係)があるが、前者は黒人、後者は先住民をめぐる言説に顕著に現れるが、一九世紀から二〇世紀の人種概念の形成と変化は、政治状況も含む様々な要因から前者の重要性が後者のそれを上回っていくプロセスであると考えられる。このような観点から、一九世紀後半から二〇世紀にかけて人種をめぐる書かれた文学作品を分析し、このプロセスの实在とその具体的な様相を確認することが本研究の主目的であった。

3. 研究の方法

「人種」概念についての従来の先行研究について、MLA インターナショナル・ビブリオグラフィ等の文献データベースを用いて調査し、同時に一九世紀および二〇世紀文学における「人種」概念の先行研究についても、同じく文献データベースを用いて調査し、実際の文献になるべく網羅的に当たることによって、通史的な視野を獲得しようとした。「血」と「場」それぞれに重きを置いた文学的言説について文献表を作成しながら、それらの文献の入手、読解、読解を進めた。

4. 研究成果

(1) 3年にわたり検索、収集を行った結果、本研究の主題に関するかなり網羅的な参考文献表を特に以下のテーマに関連して完成させることができた。

- a) マーク・トウェインと人種観およびトウェインのヨーロッパ観、移民観
- b) ウィリアム・ディーン・ハウエルズと人種観およびハウエルズのヨーロッパ観、移民観
- c) ヘンリー・ジェームズの人種観および移民観
- d) アメリカ先住民(インディアン)研究の現代文学・アメリカ研究の中の位置づけ
- e) レズリー・マーモン・シルコウの「死者の暦」に関する研究

(2) マーク・トウェインが同時代の米国で広く流布しつつあった「先祖に一人でも黒人がいれば、その人物は黒人と見なされる」といういわゆる「一滴ルール」に対する批判と、ヨーロッパ人への米国人の憧憬と偏見を表彰した作品として、「まぬけのウィルソン」論を執筆、口頭発表を行なった(論文として公開するための改訂・再投稿の作業中)。

(3) 上記(2)と同じ観点から W.D.ハウエルズ「絶対の義務」論を論文集の1部として出版、その内容を発展させ、口頭発表を行った(概要が公開されている)。

(3) さらに同じくハウエルズの「アルーストック号のレディ」論を執筆した。この作品における「アメリカ的な美德」としての平等が、「色の浅黒い」白人女性によって表象されていることに着目し、人種とジェンダーをめぐるハウエルズの葛藤が解決されないまま、「絶対の義務」で発展した形で表現されていくと論じた。この論文を平成 30 年の ALA 年次大会における口頭発表を目的に投稿し、採択された。(概要が公開予定)

(4) 先住民文学におけるアメリカ人としてのアイデンティティの問題について「トランスナショナルな想像力」という視点から、レズリー・マーモン・シルコウ「死者の暦」論を平成 30 年 6 月のアメリカ学会全国大会で発表する機会を得、先住民文学の中でも、現代のさまざまなトランスナショナルな状況を反映させ、また同時にヨーロッパからの移民とその子孫のヨーロッパ系アメリカ人をも排除しない世界を想像する方向を希求している、と論じる内容で、口頭発表を行なった。

(5) アメリカ人としてのアイデンティティについて、アジア系アメリカ人としてのアイデンティティと「境界線」表象との関係を追求めたマキシーン・ホン・キングストンの小説についての論文を執筆、平成 30 年に口頭発表の予定である。

(6) 本研究で得た知見は、研究年度を通じて執筆、編集作業を行なった「アメリカ文化年表」(南雲堂、平成 30 年 6 月発売予定)の項目執筆に反映された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

Democracy and American Girls: Gender, Class, and "Race" in William Dean Howells' International Novels, *The Howellsian* Vol 21, No.1, 2018, 査読有、掲載決定済、(口頭発表梗概)

An Imperative Duty And the Idea of Race in the Late 19th century 査読有 *The Howellsian* Vol.20, No.1, p4. 2017, (口頭発表梗概)

杉山直子 『間抜けのウィルソン』におけるもうひとつのパスシング イタリア人双生児の人種アイデンティティをめぐる一考察』、『マーク・トウェイン 研究と批評』査読有、第 14 号 2015、pp.85-95

[学会発表](計 5 件)

杉山直子 マキシーン・ホン・キングストン作品における場所とアイデンティティ、ボーダー・ナラティブ表象(タイトル版、招待発表) 2018 AALA 全国大会

杉山直子 "One World, Many Tribes": Transnational Imagination in Leslie Marmon Silko's *Almanac of the Dead* 2018 アメリカ学会全国大会(招待発表、北九州市立大学)

杉山直子 Democracy and American Girls: Gender, Class, and "Race" in William Dean Howells' International Novels: 2018 American Literature Association (San Francisco: Hyatt Regency San Francisco)

杉山直子 *An Imperative Duty* And the Idea of Race in the Late 19th century: 2017 American Literature Association (Boston Westin Copley Praza)

杉山直子 Another "Passing" in *Pudd'nhead Wilson*: the Question of Racial Identity of the Italian Twins: 2015 The Clemens Conference (The Mark Twain Boyhood Home & Museum)

[図書](計 2 件)(共著)

亀井俊介監修 杉山直子/澤入要仁/荒木純子/渡邊真由美 著『アメリカ文化年表』南雲堂、2018年6月(予定、書籍全体について全員で執筆・編集等を行っているので分担部分は特定できない。)総ページ数 336 頁

杉山直子「人種」とはなにか ウィリアム・ディーン・ハウエルズの『避けられない義務』に描かれた、十九世紀末アメリカの人種概念、河正一他編著『仁科弘之教授退職記念論文集 言語を巡る X 章 言語を考える、言語を教える、言語で考える』埼玉大学教養学部・人文社会科学部研究科、2017、pp.442-454.

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<https://howellssociety.files.wordpress.com/2017/11/howellsian-fall-2017-vol-20-no-1.pdf> (雑誌論文)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉山直子 (SUGIYAMA, Naoko)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号：20213506

(2) 研究分担者

(なし)

研究者番号：

(3) 連携研究者

(なし)

研究者番号：

(4) 研究協力者

(なし)